

建設機械製造業界の「低炭素社会実行計画」(策定中)

		計画の内容
1. 国内の企業活動における 2020 年の削減目標	目標水準	現在、検討中。 (これまでの自主行動計画での取組を継続。これまでと同様に、国内工場の生産活動における省エネを対象とし、エネルギー原単位での削減目標を設定する。)
	目標設定の根拠	現在、検討中。
2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減		現在、検討中。 (製品のライフサイクルを通じたCO ₂ 排出削減を推進する。)
3. 国際貢献の推進(海外での削減の貢献)		現在、検討中。
4. 革新的技術の開発・導入		現在、検討中。
5. その他の取組・特記事項		年度内に策定予定。

建設機械製造業界の「低炭素社会実行計画」(策定中)

平成 25 年 12 月 10 日
一般社団法人建設機械工業会

1. 業界団体の削減目標、今後の見通し等

(1) 業界の概要及びカバー率

● 業界の概要

● 業界全体に占めるカバー率

業界全体の規模		業界団体の規模		低炭社会実行計画参加規模	
企業数	社	団体加盟企業数	社	計画参加企業数	社 (%)
市場規模	売上高 億円	団体企業売上規模	売上高 億円	参加企業売上規模	売上高 億円 (%)

* カバー率については、参加企業数●社/△社や、生産高・量のカバー率■%などを記載。

* 合わせて参加規模・カバー率を向上させるための方策も記載。

● 自主行動計画の対象範囲との差異

(2) 削減目標と今後の見通し

	基準年度 (年度)	現状 (2012年度)	2013年度	2014年度	2015年度	2020年度	2030年度
対策評価指標 (目標指標) (〇〇)						(目標値)	
CO2排出削減量 (万 t-CO2)							
省エネ効果 (例：導入1単位あたり)							
年間省エネ効果 (単位)							
対策効果の算出時に見込んだ前提							

* CO2 排出量及び省エネ効果は可能な範囲で記入。

* CO2 算定の際の電力排出係数は、〇〇kg-CO2/kWh を用いた。

(3) 対策評価指標（目標指標）について

- 対策評価指標（目標指標）を選択した理由

(4) 目標値について

- 目標値が自ら行いうる最大限の水準であることの根拠（実施する対策内容とその効果等の根拠）

BATリスト	削減見込み量	算定根拠 (左記の設備機器がBATである根拠を含む)

(5) 2020 年度の想定排出量、エネルギー使用量等について

- 排出量、エネルギー使用量関係

基準年度実績 (年度)	2012年度実績	2020年度 (2012年時点における想定・見通し)
(万t-CO2)	(万t-CO2)	(万t-CO2)
(原油換算kl)	(原油換算kl)	(原油換算kl)
(kWh)	(kWh)	(kWh)

* CO2 排出量は可能な範囲で記入。ただし、現状（2012 年度）の CO2 排出量については、必ず記載すること。

* CO2 算定の際の電力排出係数は、〇〇kg-CO2/kWh を用いた。

(6) 活動量関係について

● 活動量指標

● 上記指標を選択した理由

● 活動量、CO2 原単位

	基準年度実績 (年度)	2012年度実績	2020年度 (2012年時点における 想定・見通し)
活動量 (単位)			
CO2原単位／ エネルギー原単位 (万t-CO2／万トン)			

* 活動量は、「〇〇戦略」における前提に基づいて算定。

(7) 目標達成の確実性を担保する手段

2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減

(1) 他部門での排出削減に資する製品・サービス等

低炭素製品・サービス等	当該製品等の特徴、従来品等との差異など

(2) 低炭素製品等による 2020 年度時点での CO2 排出削減見込み

低炭素製品・サービス等	削減見込み量	算定根拠、データの出所など

3. 国際貢献の推進（海外での削減の貢献）

（１）海外での排出削減に資する技術等

技術等	当該技術等の特徴、従来技術等との差異など

（２）技術移転等による 2020 年度時点での CO2 排出削減見込み

技術等	削減見込み量	算定根拠、データの出所など

4. 革新的技術等の開発・導入

(1) CO2 排出量の大幅削減につながる革新的技術の概要

革新的技術	投資予定額	技術の概要

(2) 開発・導入・普及に向けた今後のスケジュール

(3) 技術普及・導入した場合の年間 CO2 排出削減効果

革新的技術	削減見込み量	算定根拠

5. その他の取組・特記事項

(以 上)